

論 文 要 旨

学籍番号	80833380	氏 名	中野 友道
論文題目： ライフサイクルを考慮した 都市構造シミュレーションモデルの研究			
<p>(内容の要旨)</p> <p>中心市街地の衰退した地方都市をまとまりのあるコンパクトな形態に変え、全世代がバランスよく居住する活気ある街づくりをすることが近年の都市計画の課題になっている。しかし中心市街地に人を呼び戻すには、必要施設の配置はどうか、個々人のライフステージによって異なる、都市に住む上での人々の居住環境への要求をどう考慮していくかといった課題がある。そこで本研究では、将来日本が迎える人口減少・高齢化社会における都市構造のあり方を検討することを目的として、働き手世代・子育て世代・高齢者世代の3世代のエージェントからなる、都市の人口移動の評価を行う都市構造シミュレーションモデルをマルチエージェントシステムのシミュレーション言語 artisoc を用いて開発した。開発したシミュレータはエージェントのライフステージ、移動可能範囲、居住地移動確率、必要施設の個数や配置を変化させて、様々なケースにおける人口移動の評価を行うことができる。シミュレーションの結果、以下の3つの知見を得た。</p> <p>(1)高齢者の日常生活における移動可能距離を広げることは、都市のスプロール化や世代別に居住分離の促進につながってしまう。</p> <p>(2)高齢者の居住地移動確率上げて居住地移動を促進させると都市のコンパクト化や各世代の居住混合に寄与する結果となる。従って、今後の日本の都市計画においては高齢者の引越しを支援することが非常に重要である。</p> <p>(3)病院などの高齢者の必要施設は、郊外に設置するよりも市街中心部に設置した方が全体として都市のコンパクト化と各世代の居住混合につながる。</p> <p>キーワード：マルチエージェントシミュレーション，都市計画，高齢化社会</p>			